# 教区新報 HONGYO

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341—5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1992. 10. 61号


# 「ここぞという時質問を」

## 即如門主ご巡教でお言葉

朝来組
姫路東組

去る九月三十日から十月二日にかけて、即如門主が朝来組（森田紫雲組長）、姫路東組（小松勝昭組長）をご巡教された。

九月三十日午前十一時半、朝来組行事寺院の如来寺（森田紫雲住職）では大勢の門信徒らが一行を出迎え、午後から式典、法座などが開催された。

ご門主はご親教のなかで「仏教の根本はお葬式や祖先供養ではなく、私が生死の迷いを越えて悟りを開くことです。そこから私の生きる道があきらかになり、人々のいのちに関わること、こころに関わることをはじめ、お葬式や祖先のこと、そして誕生の意味や結婚のあり方をも考える道が開かれます。言い換えればこうした人生の大切な出来事の中でこそ仏法のこころがありがたく受け取れるのです」と仏教の根本と人生の関わりについても述べられ、本堂いっぱいの門信徒らは静かに聞き入っていた。

式典後の法座Aでは、根強い習俗の中での伝道のむつかしさ、仏婦（特に若婦人）の組織化と運営についての問題、住職後継者の問題が提起され、随行講師の山崎龍明師が習俗の問題については、自身の体験を通して「仏と神のけじめのつかないご門徒がいるところから出発し、切り捨てではなく願いを持って地道な営みを持続し、習俗がいのちをダメにしてしまうことを見極めよう」と助言した。

続いての法座Bでは門信徒から仏壮組織化についての質問や、聴聞につきると思うが素直に喜べない、困ったときだけお参りするだけで救いがあるかと迷っているような若い人にも、苦しい時でなくてもお参りしやすい法座を持って欲しいなど経験を通しての発言があり、山崎師の助言に続いて随行長の豊原大成総務が「煩悩が深いほどみ教えに会った喜びも大きい。誘い合ってご正忌などに参ってください」とまとめた。終了後ご門主は本堂でご会食、日程を終えられ、多々良木みのり館に宿泊された。

（2面に続く）

記念植樹に向かわれるご門主（如来寺で）

### 憶

残暑殊のほかきびしかったが、お彼岸が近づくとさすがに秋めいてくる◆秋は豊穣の季節でもあるが、草木が黄葉、落葉してそろそろ物のあわれさが身にしむ季節でもある。中秋の名月の夜、澄みきった星空を眺めながら、ふと、いつかの新聞記事を思い出した◆阿弥陀経に「これより西方十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽という」と書かれてある。極楽浄土までのはるかな道のりはどのくらいの距離であろうかと大真面目に計算に挑んだ人がいる◆近畿数学史学会の会長で大阪工業大学の山内俊平元教授その人である。多くの仏教書などをもとに算出した結果は光の速さの乗り物でも、たどりつくのに一億年の十億倍もかかる計算結果になるそうだ◆「どんなにもがいても行けない距離。日々精進してあとのことは仏様におまかせする。極楽への道は、こうした心の持ちようだと、改めて悟りました」と教授は述懐された。なかなか含蓄のあるおもしろいお話だと思う。（加古 寛）



## 教区だより 10・11月

| | |
|---|---|
| 5日(月)～7日(水) | |
| 教区寺婦連盟研修旅行 | 北 陸 |
| 7日(水) | |
| 別院仏婦永代経法要 津川 肇師 | 1時半 |
| 13日(火) | |
| 仏婦総連盟若婦人研修会 | 本 山 |
| 14日(水)～16日(金) | |
| 別院常例法座 松田義孝師 | 1時半 |
| 16日(金) | |
| ビハーラ推進部会 | 2 時 |
| 18日(日) | |
| 教区若婦人の集い | 10時半 |
| 20日(火) | |
| 教区少年連盟指導者研修会 | 1 時 |
| 24日(土) | |
| 青僧会聞法大会 | 1時半 |
| 27日(火) | |
| 第5回ビハーラ研修会 | 1 時 |
| 29日(木)～30日(金) | |
| 全国教誨師大会 | 福 岡 |
| 11月7日(土) | |
| 第一土曜仏教講座 | 1時半 |
| 15日(日) | |
| 教区仏壮岡山大会 | 岡山南組西念寺 |
| 27日(金)～29日(日) | |
| 神戸別院報恩講 | 別 院 |

## されど住職

# 木彫から一級建築士

姫路中組法恩寺住職
真能（まのう）義見（ぎけん）さん

旧制中学を卒業後、友達に勧められて受験した早稲田大学で建築を学んだ。「東京なんか…」と思ったが東京を知らないで決めつけてしまうのもどうかと考え一緒に受験したが、合格したのは自分の方だった。

石膏で映画のセットを作ったり、戦争中は木製の飛行機作りに行ったりもしたが、東洋美術の講義に興味を持ち、昭和十二～三年頃は柳田国男、折口信夫らの民間伝承の集いに足を運んだこともある。「本職にならないものは趣味」と言う通り、話を聞いていると、若い頃からいろんなことに興味を持ってきた様子がうかがわれる。

子どもの頃、近所の棟梁をまねて木彫をはじめ、「木のことを知りすぎる」ほど木を削り続けたり、神戸・明舞団地の二期工事の監督を勤めた七カ月程の間、現場で石ころ拾いを続け、メタセコイアの化石を見つけたり、「建築より採鉱冶金をやりたかった」という。

一級建築士という資格については「後で考えると有名な先生の講義を受けていたんですね」と、学生時代を振り返りながら、「私の場合は大きな仕事をしているわけではないので…」と控え目な答えが返ってきた。

組内の光徳寺、浄専寺の建築に携わった時も、棟梁の流儀があるので、あまり自分の設計を押しつけなかった。「（建築は）その地のやり方でいいのではないか」と語る。

「お寺自身を疑問に思う。いつまでも紫宸殿造りというのも金がかかるし、もっと新しいものができないか」という真能住職に別院改築について尋ねると、「あの時代の建物は改築の時期に来ている。増築の可能性を考えて建てることが大切。洋風建築は建物洗いで維持費がかかりますからね」と答えてくれた。

（広報部）

## 敬弔

**結城令聞師**（ゆうき・れいもん＝姫路中組善教寺住職）八月二十八日、九十才で往生。葬儀は八月三十一日、善教寺で。「唯心院釋令聞」。昭和九年から住職在職五十八年。伝道院長、京都女子学園長、布教講会講頭、安居評議員、特別審事などを務めた。東京大学名誉教授（仏教思想史）。

**山元正念師**（やまもと・しょうねん＝赤穂南組妙道寺衆徒）九月一日、八十才で往生。葬儀は九月二日。「至徳院釋正念」

**小谷海旭師**（こたに・かいきょく＝城崎組西光寺前住職）九月五日、八十一才で往生。葬儀は九月七日、西光寺で。「慈光院釋海旭」昭和四十四年から住職在職二十二年。昭和十二年から教務課、同二十二年から補導使・司法補導使を務めた。

**中川昌賢師**（なかがわ・しょうけん＝多紀組弥陀寺住職）九月十七日、七十七才で往生。葬儀は九月十九日、弥陀寺で。「慈照院釋昌賢」昭和二十二年から住職在職四十五年。昭和四十年から副組長、昭和五十四年から同五十九年まで組長。

## 結城令聞師を偲んで

# 善き人との出遇い

松田義孝
（赤穂北組慈眼寺）

昭和四十二年四月、伝道院に入所して三日目のことでした。結城令聞院長先生がお呼びとの事。院長室へ飛んで行きました。

「お父さんはお元気か」とお聞き下され、続けて「君も播州、私も播州。君も剣道、私も剣道。しっかり勉強せよ。この成績はなんじゃ。大学で勉強せずに剣道ばかりしてたな。剣道の極意を答えて見よ」とお聞きになられた。「はい、先々の先です」とお答えすると、「オー、それなら浄土真宗の極意は？」とお尋ねになられた。

大学では神子上恵龍和上にお教えいただいたが、和上をはじめどの先生も浄土真宗の極意という表現はなされなかったように思い、「浄土真宗の極意という表現は聞いたことがありません」とお答えした。

「バカタレ。大学で剣道ばかりして真宗をちゃんと勉強してないからじゃ。よう覚えておけよ。浄土真宗の極意は、先手の本願、これしかないぞ。寺に生まれて剣道してよかったな。極意は一緒、ありがたいなー、ありがたいなー」とお教えいただいた。

「剣道の『先々の先』とは、相手が打とうと思う前にそれを見抜いて、それより先にズバッと打っていくのが『先々の先』。『先手の本願』とは、この凡夫の私が、地獄に落ちともない極楽に生まれたいと心に思う前にそれを見抜いて、それより先に『地獄へは落とさんぞ、必ず極楽へ迎えずにはおかんぞよ』と呼び続けて下さっている阿弥陀さまのご本願。この私が地獄へ落ちともない極楽に生まれたいと思う前。いつの前かというと『弥陀成仏のこのかたは、いまに十劫をへたまへり』とあるぞ。だから、助けて下さい阿弥陀さまではなかった、助けて下さる阿弥陀さまであったなー、といただくのが浄土真宗。忘れるなよ。／＼。」とおさとし下さった事が、昨日のように思い出されます。

## 慣習の祭りにどう対応

（1面から）

一日は照福寺（石田保孝住職）光明寺（前田徳水住職）教蓮寺（斎藤正俊住職）をご巡回の後、姫路東組へ向かわれ、行事寺院の教福寺（大谷郁文住職）に予定通り到着された。

姫路東組の法座Aでは、慣習が重んじられる播州においてそれをどう変えていくか、具体的に祭りに対する対応をめぐって活発な話し合いとなった。

その中では、「子どものため、地域のためと、これではいけないと思いながら現実に流されている」「祭りで念仏し、ご門徒に寺に参ることを勧めるために積極的に参加する」「頭の中で分かっているが、子どもがかわいそうと言い訳しながら実は門徒がこわい。一自治会員として貢献に反するようなことはできないという気持ちにふんぎりをつけさせてくれるようなアドバイス、団体でアピール出来るようなバックボーンが欲しい」など現場の悩み、「教義はわかる。み教えを教団の中にどう生かすかが大切」という意見も出され、自己の正当化、王法仏法の捉え方を通して「世間通途に迎合することなく真摯に教えを求め語っていく中で、そういうことが今まで問題にならなかったという声が上がる。たくわえられたみ教えによって世俗が問題となり壊されてくる」とまとめられた。

続く法座Bでは、迷信の問題、病気で苦しむ人への対応などの問題、若い人をお寺や仏教に引き寄せるための方法、現実的な布教の希望などさまざまな意見・質問が出された。ご門主は「聴聞にきわまるとは、疑うこころなきことが肝心。納得の行かない話をじっくり考えることが大切。普段から布教使さん住職さんに質問をしていただきたい。受ける側にもよいきっかけ。職業・生活に基づいた話しが少ないと思ったら良く考えて、こことという時（質問を）出して下さい」という主旨のお言葉を述べられた。

最終日は正楽寺（大谷千正住職）浄福寺（小松勝昭住職）教岸寺（榊原宗宣住職）をご巡回の後、姫路駅から新幹線で帰山された。



# 姫路・神戸で僧侶研修

**HO回誌**

◆**8月24日**＝教区僧侶研修会を姫路市花の北市民広場と神戸別院で。講師は龍谷大学教授・浅井成海師、中央基幹運動推進相談員・好井正良師。従来切り離して考えられてきた縁起と業についての問題や、真宗で説かれた誤った業論など、テキストに基づいた問題提起と、全体会では、己の信仰を問うことをしなかった私自身への問いかけという資料作成の願いや、真俗二諦論への問いかけなどについて話された◆**26日**＝城崎組住職寺族同盟講座を徳證寺で。講師は太田唯念師（播磨中組西念寺）◆**29日**＝東西真宗保育研修会を第一仏光保育園（揖龍西組明正寺）で。年齢別やグループ別の公開保育と大塚歌子武庫川女子大学教授の記念講演など◆**30日**＝仏壮ブロック研修を佐用組法覚寺で。講師は野村康治師（大阪教区中島東組瑞松寺）、竹内俊之師（揖龍東組浄蓮寺）。本年度四会場で、合計五百五十人の参加でした◆**31日**＝本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、総合復興計画に関するご消息披露式典と推進の集いを別院で◆**9月1日**＝総代ブロック研修を姫路西組本徳寺で。講師は太田唯念師（播磨中組西念寺）、近藤龍樹師（加古川組普光寺）。約二百二十人の参加者が八班に別れての話し合い。参加者の中には、話し合いの方法が分からずとまどう声も◆**2日**＝寺族青年軟式野球大会を滋賀・守山球場で。今年も教区から二チームが参加。『SSS』チームは一回戦高岡教区に六対七でサヨナラ負け。『南無』チームは一回戦、長野教区に十六対五で大勝、二回戦は滋賀教区に二対十四で大敗。点を取り過ぎて疲れたのが敗因…？◆**2日～3日**＝仏婦委員研修旅行に三十人が参加。妙好人お軽同行の足跡を訪ねて、山口別院、六連島・西教寺へ。「こうも聞こえにゃ聞かぬがましよ聞かにゃ落ちるし聞きゃ苦労　今の苦労は先での楽と気休め言えど気はすまぬ」とはお軽さんの煩悶の歌◆**3日**＝建設・推進委員会広報部会を別院で。組ご消息披露のパンフレットについて◆**4日**＝総代ブロック研修を豊岡教堂で。講師は井上朋義師（加古川組正願寺）、和田宏之師（揖龍東組源徳寺）◆神明組住職寺族同朋講座を万宣寺で。講帰は宝池龍祥師（多可組正福寺）◆山陰教区因幡組妙円寺から二十人が別院団参◆**5日**＝総代ブロック研修を多紀組光専寺で。講師は井上朋義師、高崎長英師（北摂組正光寺）◆第一土曜仏教講座を別院で。講師は竺文彦師（龍谷大学助教授）テーマは「琵琶湖と水問題」◆**6日**＝赤穂北組仏婦研修会を善行寺で。教務所長が出講◆**7日**＝別院仏婦学習会。別院仏婦定例法座。講師は谷川秀一師（姫路東組願正寺）◆組長会を別院で。本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立に関して、募財依頼方法・組別ご消息披露などについて◆企画推進室会議を別院で◆大阪教区島中南組誓源寺仏婦四十人が別院団参◆**8日**＝総代ブロック研修を別院で。講師は西脇正文師（揖龍西組超念寺）、藤栄行信師（淡路組宣徳寺）◆大阪教区河中北組浄福寺仏婦約五十人が別院団参◆仏婦ダーナ会議を別院で◆**9日**＝連研のための研究会を別院で。網干組赤松義光相談員、加古川組井上朋義組長から第七期連研報告の発表と、協議会では研修読本第二章から縁起の教えについて。この日の講師は、連研中央講師西池哲俊師でした◆**10日**＝建設・推進委員会広報部会を別院で。納骨所パンフ、趣意書冊子作成について◆阪神南組ご消息披露を常念寺で。「お参りしやすい別院にしてほしい。建設に伴うねらいを明らかにしてほしい」と参加者からの意見◆青僧会役員会を別院で◆**11日**＝近畿ブロック寺族婦人研修会を本山・門徒会館で。教区から四十八人が参加。教学研究所副所長・梯實圓師から「真宗における儀礼について」の基調講演と班別討議◆少年連盟サマースクール反省会を別院で◆**12日**＝布教団会議を別院で◆**13日**＝門徒推進員研修会を網干組政源寺で。「雑行を棄てて本願に帰す」というテーマで、西脇修師（揖龍西組超念寺）の基調講演と班別法座◆**14日**＝総代ブロック研修を高砂組覚正寺で。講師は西脇正文師、近藤龍樹師◆**14日～16日**＝別院常例法座。講師は小林浄子師（赤穂北組明専寺）◆**16日**＝同兵宗連役員学習会を別院で。講師は城間哲雄氏（部落史研究者）。城間氏は水平社七十周年と反宗教闘争の教訓を中心に「水平社運動と宗教」について講演。大西正義氏の「同宗連への苦言」を紹介しながら、同宗連への期待にも触れた。参加者からは「信仰と社会問題は別という宗教者の体質は根強い。そのために部落問題にも消極的。同宗連として学習の場だけでなく、具体的に社会にアプローチできるような体制作りが出来ないか…」という意見も出された◆仏婦常任委員会を別院で◆**17日～18日**＝青僧会一泊研修。妙好人のみ跡を訪ねて、山陰路へ◆全戦没者追悼法要を千鳥ケ淵墓苑で。教務所長が出勤◆**19日**＝神戸東組ご消息披露を妙善寺で。身体に障害のある人への配慮や、設備についての質問も◆**21日**＝阪神北組ご消息披露を源照寺で。地域差についての質問や募財方法についての希望も出された

# 組ご消息披露始まる

別院で同兵宗連が学習会

## 11月15日に仏壮岡山大会

本年度に予定の岡山大会は岡山仏壮の活性化をめざし、十一月十五日、岡山南組西念寺で中央相談員・好井正良師を講師に迎え開催される。内容は記念講演・アトラクション・体験発表・助言などを予定している。